

3 社会連携・社会貢献

		中期目標		中期プラン				
項目	目標	目標の説明	ロードマップ				プラン内容	
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		
1	明治大学を拠点とした世界につながるヒューマンネットワークの構築・活用	「オール明治」の一体感の醸成及び各種事業における活用	本学を拠点としたヒューマンネットワークを構築・拡充するとともに、地球規模の課題に対して、その課題の発見や解決等に取り組み、幅広い研修等の要請に応える。		海外からの研修要請への対応			①アジアを中心とした諸外国からの研修を受け入れ、人材育成の観点から大学の知的財産を活用した国際貢献に取り組む。 ②国内外で活躍する校友及び父母と連携し、各種事業を展開する。
2	教育・研究・社会連携という大学の中核機能を高度化することによる社会と地域の発展への寄与	「地域における知の拠点」としての大学の存在意義の明示	全学的な地域連携の方針策定 創業者出身地、キャンパス所在地、連携協定を締結した地域等に加え、地域社会・産業・行政等と連携し、地域活性化、震災復興等の社会的課題に取り組む。  震災復興支援センターについては、東日本大震災及び熊本地震に関して、被災地と首都圏で支援活動を展開する。	社会連携機構の役割の明確化	明確なビジョンに基づく事業推進			①社会連携機構の役割を明確化し、連携事業推進の取り組み方針を定める。また、その方針に基づき、これまでに取り組んできた事業の見直しを行い、戦略的な連携事業推進を行う。 ②キャンパス所在自治体との協定に基づく事業の推進 【駿河台キャンパス】地域・自治体や文化的活動を中心とした様々な分野で活動している諸団体との連携強化 【和泉キャンパス】杉並区、世田谷区との連携強化に加えて、明大前商店街との地域連携を推進 【生田キャンパス・黒川農場】包括協定または覚書締結等による共同事業の推進 【中野キャンパス】中野区等との連携及び産業育成支援(産官学民連携事業) ③明治大学を中心とした連携自治体(創業者出身地、キャンパス所在地、震災復興支援地域)同士の新たなネットワーク構築 ・本学と複数の自治体が協働した事業の推進 ・各自治体の課題解決に資する連絡協議会の開催 ④学部等諸機関、教職員、ゼミ、サークルなどがそれぞれ取り組む地域連携活動の情報を集約・発信することで、全学的に地域連携事業を推進 ⑤震災復興支援センターによる震災被災地支援 ・震災により加速し、顕著になった地域課題解決のための支援を実施 ・学生の学びの場にもなるボランティアの機会を提供
3	地域社会・産業・行政との連携によるプロジェクトの推進	知的資産の社会への還元及び社会的な課題の解決	社会的な課題の解決や幅広い地域及び年齢層の多様な人々が学びあう場を提供することで、さらなる社会連携を推進し、明治大学のあらゆる活動分野でのネットワークを拡充する。	創業者出身地・協定締結自治体等との事業推進				①学生の自治体派遣事業並びに教職員による現地での人材育成事業を実施する。 ②上記2①に基づいた、産学官連携事業を実施する。
				産学官の連携ポリシーを制定	ポリシーに基づく事業推進			

3 社会連携・社会貢献

		中期目標		中期プラン			
項目	目標	目標の説明	ロードマップ				プラン内容
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
4 主要キャンパス等における生涯学習機会の提供	リバティアカデミー・公開講座の充実	生涯学習機関としての「質」の向上と体制強化、カテゴリー・キャンパスごとに実現すべき目的・ミッションの明確化に努める。	社会的ニーズ、経済性に立脚した開講講座及び講師の戦略的な配置と見直し				①既存の「資格・実務・語学」「教養・文化」「ビジネス」プログラムの充実と見直し ②女性の活躍及び社会復帰を支援するプログラムの推進 ③高齢化社会、健康志向の高まり、オリンピック・パラリンピックに対応した講座の展開 ④他大学や協定自治体との連携に基づく講座の展開 ⑤実践的語学力向上への貢献 ⑥受講生の「学び直しの場」の機能に加え、「世代間交流の場」、受講生同士のコミュニケーションを通じた「生きがいを創出できる場」とする
	各キャンパスのリバティアカデミーの充実	駿河台、和泉、生田、中野の4キャンパス及び黒川農場でその特徴を活かした「リバティアカデミー講座」(教養・文化、ビジネス、スポーツ等)や自治体等との連携講座を展開し、生涯学習の機会をさらに発展させる。	各キャンパスの特徴にあわせた講座展開				①【駿河台キャンパス】 立地を最大限に利用した生涯学習機関としての役割を果たすとともに学内外諸団体と連携 【和泉キャンパス】 図書館を核に地域との「地(知)の交流の拠点」としての役割を関係機関とも連携をとりつつ推進 【生田キャンパス・黒川農場】 地域産学連携研究センター、平和教育登戸研究所資料館や黒川農場を活用した地域連携・生涯学習・平和教育を展開 【中野キャンパス】 中野における地域拠点としての機能を充実 ②ビジネスプログラムのスキームを活用し、企業・自治体向けに企業受託研修を行う。また、それらを促進するための組織的なプロモーション体制を検討する。 ※①、②を遂行するため、リバティアカデミー運営委員会において、各キャンパスにおける講座展開の中長期計画を策定し、実施する。
			企業・自治体研修の受入を促進するための枠組みを確立	企業・自治体からの受託研修の充実			

3 社会連携・社会貢献

		中期目標		中期プラン			
項目	目標	目標の説明	ロードマップ				プラン内容
			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
5 社会貢献活動(人権, 男女共同参画, スポーツ振興, 環境保全, 平和教育等)の推進	社会貢献活動を通じて果たす大学の社会的責任	①人権教育及び人権啓発活動の推進 ②平和創造への寄与					① 本学の建学の精神「権利自由 独立自治」に則り、「教育」「研究」活動に加え、学校経営においても、人権に配慮するとともに、人権教育及び啓発活動を積極的に推進する。 ②平和教育登戸研究所資料館を活用した、本学学生及び学外者への「平和」啓発を通じた平和創造への寄与
	多様な人々が平等に活動し、尊重される教育研究環境で生み出される新たな知の創造と人材の育成を通じた社会への貢献	あらゆる多様性－性別の多様性、身体機能の多様性、文化的な多様性－を承認するとともに、それらの平等の実現に向けた実効性のある指針を策定する。「違い」に係わらず、キャンパスのあらゆる場で平等に活動し、尊重される教育研究環境を整備する。					①「明治大学男女共同参画推進基本計画」(計画期間:2016～2019年度)に沿って男女共同参画を推進する。ア)男女共同参画を促進するための教育・研究体制の構築、イ)ワーク・ライフ・バランスの積極的な推進、ウ)意識改革と理解の促進、エ)次世代の女性研究者育成、オ)意思決定過程における女性リーダーの養成、カ)地域社会等との連携、キ)国際化への対応。 2019年度春学期から実施状況の総合的な評価、課題の整理を行い、同年度秋学期に第2期明治大学男女共同参画推進基本計画(仮称)を策定し、2020年度から新たな基本計画に沿って推進する。 ②あらゆる多様性を受容する包括的な推進体制の整備 2018年度に関連する部署が連携して、男女共同参画、障がい者・少数者支援、文化的多様性をもつ構成員支援を包括的に推進するための計画を策定し、2019年度から計画に沿って推進する。
	大学スポーツの振興を通じた社会貢献	①スポーツプロモーションセンター(仮称)の設置と稼働 ②競技力向上に向けた支援策の強化 ③競技スポーツ(主に体育会)強化策の点検整備					①大学スポーツの役割(学生の人格形成に資する正課外教育・ユニバーシティ・アイデンティティUIの確立・本学のブランディングの向上)を明確にする一方、スポーツプロモーションセンター(仮称)を設置し本格稼働させる。 ②練習環境の整備や学生アスリートの心身の強化に資する条件整備に向けた施設の設置を図り地域コミュニティへの貢献の一助とする。 ③本学の社会的プレゼンスを高める競技スポーツ政策(学生の受け入れ・支援・送り出し)の恒常的な点検整備を図る。

## 学校法人明治大学第2期中期計画

### 3 社会連携・社会貢献

#### (1) 明治大学を拠点とした世界につながるヒューマンネットワークの構築・活用【「オール明治」の一体感の醸成及び各種事業における活用】

明治大学全関係者（学生・生徒・父母・校友・教職員）からなる「オール明治」が、本学を拠点としたヒューマンネットワークを構築することで、本学の有する教育研究成果の社会への発信・還元，並びに校友と協同した人材育成に結び付けます。このような視点からのヒューマンネットワークの構築は、大学の社会貢献にもつながります。

また、アジアを中心とした諸外国からの研修を受入れ、人材育成の観点から本学の知的資産を活用した国際貢献に取り組むとともに、国内外で活躍する校友及び父母と連携し、各種事業を展開します。さらに、「オール明治」の一体感を高揚させるための有効な方策として、スポーツ・文化の振興にも取り組みます。

#### (2) 教育・研究・社会連携という大学の中核機能を高度化することによる社会と地域の発展への寄与【「地域における知の拠点」としての大学の存在意義の明示】

大学の最大の使命である「教育」及び「研究」活動を推進するためには、社会との係わりが不可欠であり、大学の存在及び活動そのものが社会連携活動と言えます。本学は、知的資産を社会に還元する、あるいは社会で活用することを通じ、社会に開かれ、地域に貢献する存在として社会連携活動を推進してきました。

社会連携機構は、「地域との連携事業・地域連携活動への支援」と「生涯学習機会の提供」を事業の中核にしてきましたが、これまでの取り組みを検証するとともに、本学の建学の精神及び長期ビジョンに基づく戦略的な社会連携事業計画を策定し、事業を推進していきます。

「地域との連携事業」の推進にあたっては、創立者3名の出身地であり、本学にとって所縁が深い3地域（鳥取県鳥取市、山形県天童市、福井県鯖江市）、及び「地域における知の拠点」としてのキャンパス所在自治体との連携を2本の柱とし、協定締結自治体等とも連携しつつ、地域活性化等の社会的課題に取り組んでいきます。また、「地域連携活動への支援」として、連携自治体間のネットワークを新たに構築し、本学と複数の自治体が協働した事業を推進するとともに、震災復興支援センターを中心とする支援活動にも取り組んでいきます。

さらに、本学の学部等諸機関、教員、学生団体等が独自に行う地域連携活動の情報を収集し、外部に積極的に発信していくことで、全学的に地域連携事業を推進していきます。

「生涯学習機会の提供」として、リバティアカデミーでは、本学の知的資産を活用し、幅広い年齢層や多様なニーズに対応する生涯学習機会を提供していきます。この活動に際しては、キャンパス所在自治体や協定締結自治体及び協定大学とも連携し、人材育成を通じた地域活性化・発展への寄与を目指します。

これらの事業推進を通じ、「地域における知の拠点」として大学の存在意義を示していきます。

### **(3) 地域社会・産業・行政との連携によるプロジェクトの推進【知的資産の社会への還元及び社会的な課題の解決】**

新たに定める社会連携事業の推進方針に基づき、創立者出身3地域、キャンパス所在自治体との連携事業を中核としつつ、連携協定自治体及び連携実績のある地域における事業をさらに深化・充実させるとともに、それら自治体と地域横断的展開を図り、地域間の相互連携へ発展させる役割を果たします。

創立者出身3地域とは、それぞれの自治体と連携協力に関する包括協定を締結し、地域活性化、地域課題解決に向けた交流事業や人材育成事業に加え、本学学生と地域住民の交流連携を目的とする現地派遣事業を実施してきました。学生にとっては、フィールドワークを体験する場であるとともに、創立者や創立過程を学ぶことで本学への帰属意識を高めることにつながっています。一方で地域住民にとっては、住み慣れた地元への「気づき」の機会となり、地域活性化の一助ともなっています。今後も創立者出身地との縁を大切に、連携事業を充実させていきます。

キャンパス所在自治体との協定に基づく事業を推進するため、各キャンパスの関連部署と連携を図りながら、駿河台キャンパスにおいては、地域・自治体や文化的活動を中心とした様々な分野で活動している諸団体との連携強化、和泉キャンパスにおいては、杉並区、世田谷区に加え、明大前商店街との連携、生田キャンパス及び黒川農場においては、川崎市多摩区及び同麻生区との連携事業の拡充、そして中野キャンパスにおいては、中野区等との産学官による産業育成支援などに具体的に取り組めます。

さらに、震災復興支援センター事業による被災地及び被災者支援を通じて、震災によって加速し、顕著になった地域課題解決に向けて事業を推進するとともに、本学学生にとって震災復興支援ボランティア活動が学びの場ともなるよう、その活動を支援していきます。



これらの事業を通じて、本学学生に対する教育機会としての自治体派遣事業並びに地域での人材育成事業、さらには産学官連携による地域連携事業を推進していきます。

上記の取り組みに加え、本学との連携に関して、新規にアプローチのあった自治体等については、連携協力の目的を相互に確認し、連携の質的充実を目指します。

#### (4) 主要キャンパス等における生涯学習機会の提供

##### ①【リバティアカデミー・公開講座の充実】、②【各キャンパスのリバティアカデミーの充実】

リバティアカデミーは、駿河台キャンパスに加え、2012年度から和泉（図書館）・生田（地域産学連携研究センター）の両キャンパスにおける新施設や黒川農場の開場、さらには2013年度の中野キャンパス開設を契機にそれぞれのキャンパスの特性を活かした講座を展開してきました。今後も、各キャンパス所在自治体等と連携し、今日の社会的ニーズや経済性に立脚した講座開講方針を策定し、開講講座及び講師を戦略的に配置していきます。受講生の「学び直しの場」としての機能に加え、「世代間交流の場」を提供するとともに、受講生同士のコミュニケーションを通じた「生きがいを創出できる場」となるよう環境を整備していきます。

駿河台キャンパスは、立地を最大限に活用した生涯学習機関と位置付け、学内外の諸団体と連携します。和泉キャンパスでは、図書館を核にした地域（杉並区や世田谷区）との「地（知）の交流の拠点」としての役割を関係機関とも連携をとりつつ推進します。生田キャンパスでは、地域産学連携研究センター、平和教育登戸研究所資料館や黒川農場を活用した地域連携、生涯学習、平和教育を展開します。中野キャンパスでは、生涯学習機能のみならず、地域拠点としての機能を充実させます。

さらに、受講生の高度学習ニーズを支援・奨励するため、文部科学省「履修証明制度」を活用した講座カリキュラムの充実を図っていきます。

以上の方針に基づき、既存の「教養・文化」「ビジネス」「資格・実務」「語学」のプログラムの充実と見直しを図りながら、講座内容を高度化し、高齢化社会、健康志向の高まり、オリンピック・パラリンピック等の社会的ニーズに応える講座設置について、キャンパス所在自治体や協定締結自治体、協定大学とも連携しながら推進します。また、男女共同参画、女性活躍社会の実現に資する講座、在学生の実践的語学力向上及び資格取得支援に貢献できる講座の充実を図ります。

加えて、校友会や父母会と連携した公開講座を含む地域連携事業を推進し、寄付講座、企業受託研修、国内外機関からの受託プログラム及び地方

自治体との連携事業も拡張していきます。

## (5) 社会貢献活動（人権，男女共同参画，スポーツ振興，環境保全，平和教育等）の推進

### ①【社会貢献活動を通じて果たす大学の社会的責任】

本学の建学の精神「権利自由」「独立自治」に則り、「教育」「研究」活動に加え、学校経営においても人権に配慮するとともに、人権教育及び人権啓発活動を積極的に推進していきます。

また、生田キャンパスに設置した「平和教育登戸研究所資料館」を活用した、本学学生及び学外者への「平和」教育及び啓発活動を通じた平和創造への寄与を図っていきます。

### ②【多様な人々が平等に活動し，尊重される教育研究環境で生み出される新たな知の創造と人材の育成を通じた社会への貢献】

あらゆる多様性－性別の多様性，身体機能の多様性，文化的な多様性－を認めるとともに，それらの平等の実現に向けた実効性のある指針を策定します。「違い」に係わらず，キャンパスのあらゆる場で平等に活動し，尊重される教育研究環境を整備します。

2016年度に策定，施行した「明治大学男女共同参画推進基本計画」（計画期間：2016年度～2019年度）の下，次の基本方針に沿って男女共同参画を推進します。ア）男女共同参画を促進するための教育・研究体制の構築，イ）ワーク・ライフ・バランスの積極的な推進，ウ）意識改革と理解の促進，エ）次世代の女性研究者育成，オ）意思決定過程における女性リーダーの養成，カ）地域社会等との連携，キ）国際化への対応。このうち，ア）及びオ）の実現に向けて，各々，女性専任教員（助手を除く）の在職比率20％・採用比率25％，事務管理職における女性職員の占める割合15％を目指します。この基本計画の最終年度である2019年度春学期から実施状況の総括的な評価，課題の整理に着手し，同年度秋学期には第2期明治大学男女共同参画推進基本計画（仮称）を策定し，2020年度から新たな基本計画の下，男女共同参画をさらに推進します。

あらゆる多様性を受容する包括的な推進体制の整備について，2018年度に関連する部署が連携して，男女共同参画，障がい者・少数者支援，文化的多様性をもつ構成員支援を包括的に推進するための計画を策定し，2019年度から計画に沿って推進します。

### ③【大学スポーツの振興を通じた社会貢献】

大学スポーツの役割（学生の人格形成に資する正課外教育・ユニバーシティ・アイデンティティUIの確立・本学のブランディングの向上）を明確にすることを目的として2018年度末までに専門部局（スポーツプロモ-

ションセンター（仮称）を設置し、2019年度から本格稼働させます。

練習環境の整備や学生アスリートの心身の強化に資する条件整備のために2020年度末までに必要な施設の設置を図るとともに、この施設を利用した大学の地域コミュニティへの貢献を高めます。

本学の社会的プレゼンスを高めることを目的として競技スポーツ政策を確立し、学生の受入れ・支援・送出しのために制度の恒常的な点検整備を図ります。

以 上